



## 教科書を信じない? ~校長先生 朝礼講話より~

今日から後期が始まります。弥富市の学校は、1学期・2学期・3学期の3学期制ですが、生徒会等は今日から切り替えて、後期の役員による活動開始です。いよいよ2年生が中心の活動になります。責任感・意欲などいろいろな思いを感じていると思います。前期の3年生中心とした生徒会活動を引き継ぎ、今日からは2年生が中心となり、全校を引っ張り、さらに盛り上げていってほしいと思います。3年生は、いよいよ進路選択の時期が迫ってきますが、学校を支える立場として、後輩に協力していってほしいと思います。1年生は、入学し半年たちました。中学生として本格的な活動が始まるとともに、来年4月に後輩が入ってきた時に、胸を張って先輩としての行動をとることができるよう準備をしてほしいと思います。



さて、今日は、先日、癌の第4の治療法研究で、ノーベル医学生理学賞を受賞された京都大学特別教授の本庶佑先生についてお話をしたと思います。本庶先生は受賞後のインタビューで、記者の質問に、ノーベル賞のために研究をしたわけではなく、癌になった患者さん方の直った時の笑顔を見るために研究をしていると答えていました。また、中高生へのメッセージとして、自分が心がけていたことは、「教科書を信じない、間違っているかもしれないと思うこと」だと言っていました。これは、教科書が間違っているということではなく、「常に自分の頭で考え、正しいかどうかを納得できるまできちんと確かめてほしい。」ということです。だから、答えをおぼえるだけの勉強は意味がない。正解を導く過程が大切であるということです。これから、社会に出ていろいろな問題にあたった時、何が正解かわからない中で正解を見つけていくためにはこの過程が非常に大切です。世の中にいっぱいある正解の中で、どれが一番かを見極める力をつけることが大切です。そのために、常に自分の頭で考える学習をしましょう。



また、今回のノーベル賞に結びついた研究は、本庶先生1人の成果ではありません。研究環境や教え子に恵まれた結果です。PD-1の発見に関係した石田靖雅教授（奈良先端科学技術大学院大）やPD-1の働きをマウスで初めて確認した岩井佳子教授（日本医科大）をはじめ、多くの研究者が関わった成果だそうです。さらに家族をはじめ多くの人に支えられた成果が、今回のノーベル賞に繋がったと言えます。

最後に、若い人へのメッセージとして、本庶先生が色紙に書かれた言葉を紹介します。それは「有志竟成（ゆうしきょうせい）」という言葉です。「志あればついに成る」「固い志をもつ者は、目的を必ず成し遂げられる」という意味です。特に3年生にとっては、良い言葉だと思います。